

(1)「確かな学力」の育成に向けて

<p><b>重点目標</b></p> <p>教師と生徒の信頼関係を確かなものにする。生徒の学校生活に対する意欲は必然的に高まれば、学習に対しても当然意欲が高まり、授業に集中し学習効果は上がる。さらに指導者の授業力向上の努力をする。そして、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習習慣の確立</li> <li>・わかりやすい授業実践のための教育環境設備の充実</li> <li>・授業規律の確立と反復練習による学習理解の定着</li> <li>・言語活動の充実、学び合いにより問題解決をする力の育成</li> <li>・学びを支える自立心や向上心の育成とそのための道德教育の充実</li> </ul> <p>を重点目標とする。</p>				
<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の推進と、学習教材の作成。</li> <li>・「本時のめあて」を明示した授業の推進と効果的なICTの活用。</li> <li>・定期テスト前の学習相談を実施し、基礎・基本の一層の定着。</li> <li>・朝読書の推進、授業における情報の読み取りや論述活動の推進。</li> <li>・「道德の時間」の充実と指導法の工夫</li> <li>・<u>授業力向上</u>を目指した研修会、若年層の自主研修会の推進。</li> </ul>				
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家で予習・復習・宿題に取り組んでいますか？</li> <li>・授業の内容は理解できていますか？</li> </ul>				
<p>各種指標結果 (1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内アンケート(生徒)では、3分の2の生徒が家で予習復習宿題に取り組んでいると回答している。</li> <li>・校内アンケート(生徒)では、83%の生徒が授業内容を理解していると回答している。</li> <li>・全国学力調査では予習復習について、全国平均より8ポイント下回った。</li> </ul>				
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="132 1473 191 1668" style="writing-mode: vertical-rl;">                 自己評価             </td> <td data-bbox="191 1473 1457 1668">                 分析(成果と課題)                  家庭学習の重要性は、教職員にも生徒にも会議や全校集会等のたびに発信してきたが、仕掛けとして出来ていないのが実情であった。             </td> </tr> <tr> <td data-bbox="132 1668 191 1915"></td> <td data-bbox="191 1668 1457 1915">                 分析を踏まえた取組の改善                  2年生の学習確認プログラムでは指数が少しずつ低下している。決して授業が成立していないわけではないので、ノート点検を取り組み、学ぶ集団づくりのきっかけとする。具体的には、社会と数学を手がかりに優秀ノートを紹介し、家庭学習の定着の仕掛けとなるように進める。             </td> </tr> </table>	自己評価	分析(成果と課題) 家庭学習の重要性は、教職員にも生徒にも会議や全校集会等のたびに発信してきたが、仕掛けとして出来ていないのが実情であった。		分析を踏まえた取組の改善 2年生の学習確認プログラムでは指数が少しずつ低下している。決して授業が成立していないわけではないので、ノート点検を取り組み、学ぶ集団づくりのきっかけとする。具体的には、社会と数学を手がかりに優秀ノートを紹介し、家庭学習の定着の仕掛けとなるように進める。
自己評価	分析(成果と課題) 家庭学習の重要性は、教職員にも生徒にも会議や全校集会等のたびに発信してきたが、仕掛けとして出来ていないのが実情であった。			
	分析を踏まえた取組の改善 2年生の学習確認プログラムでは指数が少しずつ低下している。決して授業が成立していないわけではないので、ノート点検を取り組み、学ぶ集団づくりのきっかけとする。具体的には、社会と数学を手がかりに優秀ノートを紹介し、家庭学習の定着の仕掛けとなるように進める。			

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校教育が知識中心から思考力・判断力・表現力等学びに向かう人間を育成しようとしているのは全国学力調査のB問題等で感じる。先生方はそのことをどう感じるかが大切な視点であろう。また、先生方が良かれと思い発信していることを生徒はどう捉えているのかが見えると良いと思う。
	評価日 平成29年10月27日 評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目） ・校内アンケート（生徒）では、前期は3分の2の生徒が家で予習復習宿題に取り組んでいると回答していた。後期は1年生が後退してやや減少。2年生は横ばい。3年生が大幅な上昇となった。	
自己評価	分析（成果と課題） ・校内アンケート（生徒）では、前半では63%生徒が家で予習復習宿題に取り組んでいると回答し、後半では68.5%とやや上昇した。内訳をみると、3年生が受験を前にして圧倒的な努力がみられ、79.8%の生徒が家庭での学習に励んだと回答した。逆に1・2年は努力不足という結果であった。
	分析を踏まえた取組の改善 3年生の努力は、秋以降に受験に向けての学習意欲が高まったということであるが、後輩にも学習意欲が高まる仕掛けを取り組んだ。まだ結果は出なかったが、ノート点検がその一つで、少しでも取り組む意欲が湧き出るように指導した。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 効果がすぐにあらわれるかどうか不明ではあるが、続けることが重要で、次年度になっても報告してほしい。
	評価日 平成30年 2月23日 評価者 学校運営協議会

## （2）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然や人間の英知を超えたものに対する畏敬の念や感動する豊かな心を培う。</li> <li>・「いのち」を大切にし、人を思いやる心を育て、仲間と共にいじめを許さない集団作りを目指す。</li> </ul>

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒に対する取り組みの強化（スクールカウンセラーとの連携や学びのパートナーの活用を進める）</li> <li>・行事を通して人と人との絆を強め、成し遂げることの達成感をもって次への意欲を高める。</li> <li>・<u>道徳教育のさらなる充実</u>を図る。</li> <li>・人権学習をさらに充実させ、あらゆる教育の場面において、<u>いじめを許さない絆づくり</u>を意図的、計画的に推進する。</li> <li>・各教科、校務分掌、学級における人権教育の実践。</li> <li>・学級づくりを基盤とし、学年・学校全体の調和の中で生徒指導の強化を図る</li> </ul>	
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は生命や人権を尊重する意識を育てるよう取り組んでいますか？</li> </ul>	
<p>各種指標結果（1回目）</p> <p>全国学力（3年生）人が困っているときは進んで助けていますか？（8割）。いじめはどんな理由があってもいけない（9割超え）。人の役に立つ人になりたい（9割超え）など、全国平均と同等であった。</p>	
<p>自己評価</p>	<p>分析（成果と課題）</p> <p>教職員はいじめアンケートや教育相談をもとにして、生徒理解を根本におき、嫌な思いをしている生徒の支えとなるように日々教育活動に取り組んでいる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>不登校生徒への働きかけはSCへのつなぎやふれあいの杜の紹介等スムーズに行えている。しかし、生徒への関わりが浅い場合もあるので、寄り添った指導を大切にしていく。</p>
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>赤ちゃん交流・保幼小中の連携は中学生の笑顔があふれる取り組みであり、将来子育てを積極的に出来るこころを育成するのに大切な取り組みで続けてもらいたく、支援もしたい。</p>
	<p>評価日 平成29年10月27日</p> <p>評価者 学校運営協議会</p>
<p>各種指標結果（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育，人権教育，いじめ防止の取組，不登校生徒の把握と対応などを点検・見直しをした。</li> <li>・教材の見直しをしながら，在籍生徒に必要な家庭訪問をして，人権学習を実施した。</li> </ul>	

自己評価	分析（成果と課題） 心揺さぶる内容であるため、生徒理解と現状把握は必要不可欠で教材を改良して実になる取り組みとなった。
	分析を踏まえた取組の改善 学年会等での資料検討を十分に行い、充実した人権学習とする。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 行事を含め健康管理・安全対策を十分に行うことを意見交流した。
	評価日 平成30年 2月23日   評価者 学校運営協議会

### （3）「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会体験活動，部活動などを通じて社会性と規範意識を養うと共に健やかな体を育む。</li> <li>・部活動や体育を通じて，豊かなスポーツ文化を育み，自分の心身の健康に関心を持たせ，望ましい基本的生活習慣を身につけさせる。</li> </ul>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動をさらに盛んにし，スポーツへの理解・関心を高め，自らの身体と健康管理について意識を高める。</li> <li>・「保健だより」を有効活用し，自主的に健康な生活を実践する態度を養える保健室経営を行う。</li> <li>・食事，睡眠，運動，休養など調和のとれた生活を送れるよう健康観察週間を実施する。</li> <li>・性教育，エイズ教育を実施し，豊かな教育的見地を持つ講師も積極的に活用する。</li> <li>・喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する講演会や教室を実施。</li> <li>・保健委員会による健康管理等についての啓発活動の充実を図る。</li> </ul>
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の生活習慣を調査し，把握しながら「保健だより」等で発信する。</li> </ul>

各種指標結果（1回目）	
家庭での食事や睡眠は全国平均や京都府と比べても同じで、生活は安定している。地域的にみても野球・サッカー・バレーボール・バドミントン・空手等大人も子どもも汗を流す事が多く生徒にも良い環境と言える。	
自己評価	分析（成果と課題） 健やかな体については家庭的な影響が大いに関係していると思われる。将来の夢や目標を持った生徒が73.8%，家の人と将来の事について話すと回答した生徒も66.3%と全国平均を超えていることは大変恵まれている。
	分析を踏まえた取組の改善 家庭での積極的な指導や関わりが健やかな育ちに良い影響を与えているので、良いことは良いと発信していく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 基本的な生活習慣が身についていると感じている。
	評価日 平成29年10月27日      評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目）	
・保健委員会による生徒の生活習慣を調査し、把握しながら「保健だより」等で発信する。	
自己評価	分析（成果と課題） ・調査については、本校の朝ごはんランキングと称して朝ごはんアンケート結果公表した。 ・保健委員会では、体の健康以外にも心の健康として「ポカポカ言葉の木」に取り組み、全校生徒に言われて嬉しかった言葉や出来事を掲示板に貼り、全校を心あたたまる取り組みに貢献した。
	分析を踏まえた取組の改善 ・健やかな体に関しての取り組みは、行事・部活動・生徒会等さまざまな場面で行われている。よき伝統は出来ているのでこのまま継続したい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 豊かな心でもあげたが、行事を含め健康管理・安全対策を十分に行うことを意見交流した。
	評価日 平成30年 2月23日      評価者 学校運営協議会

(4) 学校独自の取組

重点目標	
英語科を中心に小中の交流を深める	
具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒指導，英語教育，キャリア教育を軸として取組みを充実させる。</li><li>・特に<u>英語教育は教職員の連携を密にして</u>，教材・指導法の効果的な交流を企画する。</li><li>・<u>児童会・生徒会の交流</u>を行う。</li><li>・小学校6年生の中学校体験（部活動見学・体験，学校説明）</li><li>・学習確認プログラム及びジョイントプログラムの結果，言語活動の取組を軸にした小中合同研修会</li><li>・人権指導について相互に授業を参観し合い、小中の指導の系統性をもたせる。</li><li>・小中合同研修会を実施し，生徒理解や授業力向上について研修を深める。</li><li>・小中一貫教育の視点をふまえた学校評価の検討と実施</li></ul>	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"><li>・小学校の英語授業の現状把握を教科会で理解共有。</li></ul>	
各種指標結果（1回目）	
夏までは小学校に英語教員が参観に行く機会が多く持て，充実した現状把握が出来た。	
自己評価	分析（成果と課題） 教科会で小学校の英語授業の情報も昨年以上に把握し，進歩はしたが，夏以降は行事が多く，停滞気味である。今後小中間の情報共有と研修を充実させる必要がある。
	分析を踏まえた取組の改善 小中の取組みは例年通り確実に出来ている。特に英語の交流について振り返る必要性がある。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 小学校でも英語の教科化がすすみ蜂ヶ岡ブロックの特徴となれば，蜂ヶ岡中学校への進学を選んでもらえるのではないかと期待する。
評価日	平成29年10月27日
評価者	学校運営協議会

各種指標結果（2回目）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同でダルニー奨学金を取り組んだ。書き損じはがき等を収集し、昨年度単独で蜂ヶ岡中で取り組んだことを、小中連携で小学校児童会にも働きかけた。結果は昨年度の2倍の協力を得られた。</li> <li>・英語科教師の交流については、両小学校ともに1年間を通して繋がりを継続した。</li> </ul>	
自己評価	分析（成果と課題） 2月には蜂ヶ岡中生徒会が中心となり、6年生を迎える部活動体験で小学校に向けて結果報告し、一定の小中共通の達成感を味わえたので、今後も継続していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 英語科教師が複数名、小学校授業参観が出来た。今後はさらに英語科個人の指導力向上というより、チーム英語科として指導方法に目を向け、授業形態を小学校にも連携をはかる。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 これからは国際社会である。地元の子どもたちが世界に出て行くと夢が広がる。是非英語力に力を入れてほしい。
	評価日 平成30年 2月23日
	評価者 学校運営協議会